



① ハンドメイドのPACORAL商品。どこか遊び心を感じさせるカジュアルなデザインの数々  
 ② 長崎県の花・椿をモチーフにした真珠のお守り「福来椿」。ひとつひとつ丁寧に手作りされている、人気の商品  
 ③ 昨年の長崎県特産品新作展で世界遺産特別賞を受賞した、ロザリオチャーム「祈り」  
 ④ 長崎池島の石炭を使用したアクセサリ「軍艦島forever コールストーン」。軍艦島デジタルミュージアムなどでも販売中  
 ⑤ PACORALのスタッフたちと

**イベント情報** 10月1日(日)から10月15日(日)に長崎空港の2Fイベントスペースで展示販売を行います。ぜひお立ち寄りください!

PACORAL商品取扱店舗:新大工町店(直営店兼工房)・URBAN RESEARCHアミューズ長崎店・PAPA'S & MAMA'S 早店「福来椿」取扱店舗:長崎県美術館・対馬空港など(上記店舗含む)

Information



**ナガサキ・マジエンタ100**  
 〒850-0017 長崎市新大工町5-12 Mフラット新大工1F  
 ☎ 070-5489-3510  
<http://www.pacoral.com/>  
 Facebookでも情報配信中  
 営 10:00~18:00  
 休 木曜日・日曜日

**パコラルのアクセサリ**  
 同社では、パール(真珠)とコラル(サンゴ)を組み合わせた「PACORAL」(パコラル)という名のブランドを展開し、ピアスやネックレス、ブレスレット等のアクセサリを加工販売している。パコラルの商品に用いられる本真珠は主に対馬産、また本サンゴは、荒木さんの出身地五島のもを使用。仕入れの際は、荒木さん自ら現地へ出

**世界へ長崎を発信したい**  
 「お客様とは一生のお付き合い」と話す荒木さん。「真珠やサンゴは、鉱物でなく、生き物です。日々身に着けることやメンテナンスを欠かさないことで、かかやきを持続させることができます。弊社商品が、お客様の生活の一助となり、心を豊

「同社はビスポークジュエリー(※)販売店として、お客様の要望に合わせて商品作りを行っており、社名にある「100」のうち「50」はお客様を指し、「共に力を合わせて作り上げる」という意味を込めています。そして、残りの「50」は作製者である私たち。「たくさんの方にアクセサリを楽しんでほしい」という思いを、名刺のロゴの色マジエンタ50%でも表現しています」  
 現在、同社の従業員はすべて女性。フォーマルな印象の強い真珠という素材を、カジュアルな場面でも気軽に身に着けてもらえるよう、女性の感性を生かし、遊び心を持って仕立てている。

向き、目で見て、素材が育った空気を感じて、生産者の声を直に聞くことを徹底している。  
 また、デザインにもこだわり、荒木さんのほか彫金技術を持つ専門の職人による、繊細な手作業にて、より洗練された商品が生み出されている。  
 さらに、パコラルでは、長崎ならではのストーリーを商品で表現しており、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産推薦を機に、キリシタン教に関連し、ロザリオとコラルを使った商品を作製。昨年の長崎県特産品新作展で世界遺産特別賞を受賞した。また、2015年の「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録を記念し発売した、石炭を使用したアクセサリは、多方面から評価を得ている。

かしてくるきっかけになれば嬉しいですね。そして、これからは長崎の方をはじめ、海外からのお客様を含む観光客の方にも手にとっていただけるよう、起業したときの「長崎を世界へ発信したい」という気持ち忘れず、長崎県産の商品をPRしていきたい」と意気込みを語ってくれた。  
 ♪女性のカラで、長崎を盛り上げていきたいと意気込む荒木さん。パコラルの商品に興味を持たれた方は、ぜひ新大工町の直営店まで足を運んでみてください。きっと貴女に合ったアクセサリと出会えますよ!

※ビスポークジュエリー  
 お客様との対話を経て作製するアクセサリのこと。同店で、お持ちのアクセサリの修理やカスタマイズも受付可能

NAGASAKI MAGENTA 100

ナガサキ・マジエンタ100  
 代表 荒木 智佳子 さん



メイド・イン・ナガサキを日々の装いに

今回のがんばってますは、新大工町商店街に店舗兼工房を構え、長崎県産の真珠・サンゴを使用したアクセサリのデザイン・加工、販売を行なうナガサキ・マジエンタ100代表の荒木智佳子さんをご紹介します。

**長崎県産「真珠・サンゴ」との出会い**  
 「長崎が真珠・サンゴの名産地とご存じでしたか?」と笑顔で話す荒木さん。  
 五島で生まれ、長崎にて学生時代を過ごし、県外での勤務を経た後、「新しい世界価値観に触れたかった」と単身オーストラリア(ハワイキングホルリデーに挑戦)。「新鮮な環境で、感性を磨くことができた」という一方、自身の故郷である長崎の海外での知名度の低さに驚き、「長崎の魅力をもっと発信していかなければ」という思いで帰郷。地元タウン誌などで勤務した後、フリーのグラフィックデザイナーとなった。  
 その後、余暇にて訪れた対馬で出会った「真珠」に魅せられ、「この長崎の誇れる名産物で、何かをしたいと思った」と起業を決意。子育てが一段落したことを機に、各支援機関のサポートを受けながら、2013年に同社を設立した。

**マジエンタへの思い**  
 「ナガサキマジエンタ100」という社名は、色の三原色のひとつ「マジエンタ」を使用し、その明るく鮮やかなピンク色から女性らしさを表現。「子育てや介護をしながらでも自宅で仕事ができる在宅ワークで雇用創出がしたい」という思いを込めてつけた。